

第3章 モデル事業

1. モデル事業の目的と実施体制

推進委員会委員

浅井 経子

(1) モデル事業の目的

モデル事業は、高等教育情報化推進協議会が文部科学省から委託を受けた「教育情報衛星通信ネットワーク高度化推進事業」のうち、教育方法に関する調査研究を行うことを目的としている。今年度は、各種ITやVSAT局の活用、実習の導入等の幅広い教育方法等の開発を行った。

平成11年度はエル・ネット「オープンカレッジ」の実施可能性を探ったが、利用については全国の受信施設を備えた社会教育施設等への広報を中心に行い、利用方法は施設側に委ねた。そのため、効果的な活用に関する本格的な検討と検証を行うまでには至らなかった。

平成12年度は利用体制についての実験的研究を行い、「連携型」「メニュー選択型」「新規開発型」の3つのタイプを設定して、エル・ネット「オープンカレッジ」活用の効果的な方法を探った。併せて、双方向性の確保に関するさまざまな実験的研究も行った。

平成13年度は利用体制、双方向性の確保およびVSAT局からの発信等についての実験的研究を行った。特に、VSAT局の活用は地域からの発信を促進するために不可欠で、生涯学習関係部課や社会教育関係センター（モデル事業実施主体）と教育センター（VSAT局）との協力体制をつくる可能性と課題を探る必要があった。

平成14年度は利用体制、双方向性の確保、VSAT局からの発信のほか、SCSやインターネット等の各種ITを併用した放送・配信、実習の導入、大学の正規授業の公開等についての実験的研究を行った。

(2) 実施体制

本モデル事業実施のために、高等教育情報化推進協議会推進委員会のもとにモデル事業実施委員会を設置し、モデル事業実施地区として下記の10地区に調査研究を委嘱した。各モデル事業実施地区はエル・ネット受信施設を中心として、施設関係者及び地域協力者、受講者の代表等からなる協議会を設置し、各地区協議会は事業の企画立案、実施、評価にあたった。

また、青森県総合社会教育センターには、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した事業の展開と評価についての協力を依頼した。

<モデル事業実施地区と各地区協議会>

秋田県：エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

茨城県：常磐大学エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

新潟県：「にいがた連携公開講座」実行委員会

石川県：いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

静岡県：「しずおか連携講座」実施委員会

愛媛県：愛媛県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

徳島県：徳島大学エル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会

熊本県泗水町：泗水町エル・ネットモデル事業実施委員会

宮崎県：宮崎・島根エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

沖縄県：沖縄県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

モデル事業実施委員会は、事業のタイプとして「連携型」「メニュー選択型」「新規開発型」の3タイプを設定し、事業を推進してきた。本年度もその3タイプで行うことし、そのうち「連携型」を「施設企画型」「大学企画型」にわけることにした。各地区協議会はそのいずれかで事業を実施した。

モデル事業実施委員会と各地区協議会は事業実施前に協議を行い、意志の疎通を図った。また、モデル事業の実施にあたっては、モデル事業実施委員会委員は現地視察調査も行った。

さらに事業終了後には、各地区協議会の報告会を開催し、モデル事業実施委員会と意見交換を行うなどして、研究の推進を図った。

2. 公開講座のタイプ

今回の実験的研究では、「連携型」「メニュー選択型」「新規開発型」の3つのタイプを設定し、さらに「連携型」を「受講者企画型」「施設企画型」「大学企画型」のタイプに分けて事業を行った。それぞれのタイプの内容は次のようになっている。

(1) 連携型

特定の大学と連携をとり公開講座を開催する。その方法としてエル・ネット「オープンカレッジ」を利用する。

- 1) 受講者企画型：受講者の代表（ボランティア）等が公開講座の企画に参加して実施する。
- 2) 施設企画型：施設が中心となって、公開講座を企画する。
- 3) 大学企画型：大学が中心となって、公開講座を企画する。
 - ①単独型：大学単独で実施
 - ②大学間連携型：複数の大学が連携して実施

(2) メニュー選択型

従来から公民館等で施設独自の講座を開設していたが、効果向上のためエル・ネット「オープンカレッジ」が提供する講座を加えて実施する。

(3) 新規開発型

エル・ネット「オープンカレッジ」の提供講座を活用して新しい学習活動を展開する。

- *留意事項
- ①上記以外のタイプも考えられるので、これを参考にしての追加も可。
 - ②放送番組については、子ども放送局等の番組の利用も考慮する。

平成14年度 モデル事業の公開講座のタイプと実施状況

〈連携型〉	1) 受講者企画型	(該当事業なし)	
	2) 施設企画型	エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会 (秋田)	
		千葉大学講座において、講師が講義を行った東京会場(国立科学博物館)と、秋田会場(秋田県総合教育センター/VSAT局)とを結び、エル・ネットによる双方向質疑を実施。秋田県内に設置した2つのサブ会場からは、ファックスで秋田会場へ質問を送った。	
		いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	
	3) 大学企画型	①単独型	常磐大学エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
		常磐大学コミュニティ振興学部の正規の授業を、エル・ネット「オープンカレッジ」公開講座として実施。また、新たな取り組みとして、講座を常磐大学で一般の方20名に受講していただいた。	
		愛媛県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	
		愛媛大学講座を大学独自収録し、愛媛県総合教育センターVSAT局から発信。県内3つの受講施設で、愛媛大学公開講座を実施。最終回では、録画番組放送後、ライブ放送に切り替え、ファックスで受け付けた受講者からの質問に対して、講師がリアルタイムで回答した。	
		徳島大学エル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会	
		徳島大学のパソコン・インターネット活用総合学習講座「ホノルルマラソンをインターネット中継しよう」を大学独自収録によりコンテンツ化し、エル・ネット「オープンカレッジ」の講座として開講。エル・ネットの放送とともに、インターネット上でのストリーミング配信、インターネットチャットを用いたリアルタイム質疑応答、ならびに受講者間交流を実施。	
沖縄県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会			
琉球大学講座を沖縄県教育委員会との連携による高大連携事業として実施。沖縄県総合教育センター(VSAT局)に高校生を招いて実際に講義をし、その様子を大学独自で収録、編集した。エル・ネット「オープンカレッジ」放送当日は、録画番組放送後、ライブ放送に切り替え、サテライト会場で視聴している高校生と電話による質疑応答を実施。			
②大学間連携型		宮崎・島根エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会	
宮崎大学と島根大学との連携によって、5回の連続講座『日本文化の源流を探る一日向と出雲の神話と芸能』を制作。最終回には、宮崎会場(宮崎市教育情報センター)と島根会場(島根大学)とをテレビ会議システムで結び、全講師によるパネルディスカッション、ライブでの双方向質疑を実施。			
〈メニュー選択型〉	泗水町エル・ネットモデル事業実施委員会		
泗水町中央公民館では、週2回程度、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用し、メニュー選択型の講座を展開している。淑徳短期大学講座では、テレビ会議システムを利用して、講師が講義を行っている国立科学博物館と泗水町中央公民館とを結び、双方向質疑応答を実施。			
〈新規開発型〉	「にいがた連携公開講座」実行委員会		
VSAT局のない新潟県でのエル・ネットへの送信方法を探った。新潟大学講座を新潟大学からSCSでアップリンクし、岐阜大学で受信。地上回線で岐阜県総合教育センターに送り、エル・ネットに再アップリンクした。つまり、SCSとエル・ネットを連結して放送した。			
「しずおか連携講座」実施委員会			
VSAT局の静岡県総合教育センターから、静岡大学講座「やきもの考古学」を発信。録画番組放送後、ライブ放送に切り替え、静岡県総合教育センターにいる講師と、香川県教育センター(VSAT局)にいる受講者との間で双方向質疑を実施。そこで、やきもの出土品の復元作業が実習として行われた。			

3. 事 例

(1) 秋田県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業

『トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう』

を開催して

エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(秋田県教育庁生涯学習課)

1. 趣 旨

エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴（千葉大学公開講座）を活用し、双方向性をもった講座の可能性を探り、より高度で専門的な学習機会を提供する講座運営の有効性を検証する。

2. 実施体制

「エル・ネット受信施設」を中心にして、施設関係者、受講者代表からなる「秋田県エル・ネットオープンカレッジモデル事業実施委員会」を構成する。実施委員会はエル・ネット「オープンカレッジ」を利用した公開講座の企画・実施・評価を行う。

3. 公開講座の日時・講座・会場

日 時	平成14年12月13日（金）10：00～12：00
講座名	「トライアングル『家庭・学校・地域』子どもを育てよう」
講 師	千葉大学 教授 明石 要一（あかしよういち）
会 場	秋田県総合教育センター（メイン会場） 受講者 69名 鷹巣町中央公民館（サブ会場） 受講者 23名 増田町ふれあいプラザ（サブ会場） 受講者 33名

4. 実施内容

国立科学博物館と秋田県総合教育センターの間でV S A T局同士の双方向講座を実施する。

5. 送受信の概要

- ①東京（国立科学博物館）から発信した衛星放送を、メイン会場（秋田県総合教育センター・・・V S A T局）とサブ会場（鷹巣町中央公民館、増田町ふれあいプラザ）で受信する。
- ②サブ会場からの質問をF A Xでメイン会場に寄せる。
- ③メイン会場からの質問およびサブ会場から寄せられた質問をメイン会場で取りまとめて講師（東京）へ質問し、講師からの回答を各会場で受信する。

6. 実施の概要

（1）エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会

モデル事業実施にあたり、講座開設担当者16名、学習者の代表4名からなる実施委員会を組織し、講座運営全般について協議した。協議内容としては、受講者の募集、広報活動、質問方法、当日の運営、アンケート調査の実施、技術研修会等について話し合われた。会議の中で、学習者の代表である委員から講義の内容が家庭教育の分野であるため、小さな子どもさんを持つ親の参加が見込まれるので、各会場とも託児の準備が必要との意見が出され、子育て支援センターのボランティアグループに託児の要請をした。

また、本県では初めて実施される事業であり、放映に関しての技術的な分野において不安が大きかったため、事前に秋田県総合教育センターのスタッフを中心にして、衛星通信活用技術研修会を開催した。この技術研修会を実施したことにより、当日の運営がスムーズにできた。

（2）講義の流れ

講義時間の120分を有効かつ効率的に運用するために、講義を3つの分野に分け各20分の講義にしていた。1回の講義の後、10分間の質疑応答の時間を設け、受講者と講師との質疑応答に充てた。また、間に10分間の休憩を入れ、リフレッシュの時間を設けた。3回目の講義終了後に10分間の質疑応答し、最後に20分間講義全体のまとめをしていただいた。このまとめの中でも活発な質疑応答がなされた。

（3）当日の状況

エル・ネットおよびオープンカレッジの概要、当日の進行、著作権の説明等のため受講者の集合時間を放送開始30分前にしたが、受講者は、ほぼその時刻までに集合した。受講者の中にはエル・ネットの存在そのものを知らない方もおり、子ども放送局や大学公開講座に関心を示す方も多かった。

また、通常のテレビ放送と違って、放送開始前の「ただいま受信されていない」旨のテロップしか流れない時間帯は「本当にはいるのか」「どんな具合にはいるのか」等の質問もあり、やや緊張気味の雰囲気の中で始まった。サブ会場では、降雪のため放送開始直前までアンテナの雪払いに追われたところもあった。

講座が始まるとメモを取りながら熱心に受講する姿が見られた。講師の明石先生の巧みな話術と独自の論理の展開で受講者が講師の話に引き込まれていく様子がよく分かった。

講話が進むにつれ、講話内容に反応がでて笑い声もあり、リラックスした雰囲気でも熱心に聴き入っていた。司会者の臨機応変な対応もあり、全体を通じてうなづきあり、笑いあいの終始和やかな感じであった。聴講後は「とてもためになった」「またこんな講座があったら受講したい」「2時間という時間の長さを感じなかった」といった感想が多く聞かれた。

(4) 双方向性のあり方について（サブ会場からの質問にFAXを使用したこと、メイン会場・サブ会場の受信等について）

明石先生の講義を録画ではなく、生放送で実施したことによって、和やかさや具体性が出て、とてもよい番組になった。双方向性の利点は、リアルタイムの質疑応答だけでなく、その雰囲気も伝えてくれるところにあり、臨場感あふれる内容であった。

また、今回はサブ会場の質問については、FAXをメイン会場で受け付け、司会者がFAXに書かれた質問内容を伝える方法をとったが、概ね、順調にいった。ただ、サブ会場では双方向性がないことで、その場での質問機会や講師とのやり取りをする機会がなく残念であった。そういう意味では、例えばサブ会場にテレビ電話を設置し、画面にサブ会場の参加者が映るようにするなど、双方向性を生かしたリアルタイムの送受信という点で、サブ会場における臨場感をいかにして向上させるかが課題であろう。メイン会場においても、その場で質問・意見を出すことは、なかなか難しく、このような「リアルタイムな放送を通じた学習形態」についての学習者の理解がより一層必要と思われる。

7. 成果と今後の課題

実施にあたっては、放映に関する機器操作の不安や受講者の確保など、いくつかの問題点を抱えてのスタートだったが、モデル事業実施委員会や技術研修会の開催を重ねることによって運営をスムーズにできた。

課題としては、まずはエル・ネットについての周知が挙げられる。本県では、ほとんどの市町村および教育機関において、子ども放送局での活用しかされていない現状を考えると、エル・ネットについて理解を図り視聴機会を増やすなど、全県的な活動をすすめることによって、県民に周知させる必要がある。ただ今回実施したことより、エル・ネットの存在、オープンカレッジ事業についての理解を図る上では、貴重な機会であったことは確かと言えるだろう。受講者は家庭教育に関わるグループ・サークルや各社会教育関係団体等に所属している方々が大多数であったが、口コミ等でエル・ネットのことが広がる可能性もあると思う。エル・ネット「オープンカレッジ」を多くの方に知っていただき、情報通信技術を活用した生涯学習についての理解を得ながら、その活用促進に結びつけたい。

また、生放送での放映のため、カメラ・音声・操作卓等の機器操作に専門性が要求されたが、ほとんどの職員は一度も操作したことはなく、技術研修会を1回行っただけで実施した。今後は専門的知識を得ながら、年に数回の研修を行い、常時操作可能な状態に熟練

する必要があるだろう。

生放送という点では、講師と受講者との間に双方向性を持たせる意義は充分にあるが、互いの質疑応答の事前予想がとても難しく、今回は講義のレジュメをあらかじめ受講者に配布して、ある程度の質問を準備したが、双方向性をもたせるために、すべてがリアルタイムで公になる電波以外の方法も併用して行う方法を考える必要性を感じた。

本県では、発信機能を持ったV S A T局が、生涯学習関連施設にはなく、主に学校教員の研修施設である県総合教育センターにあり、今回は県総合教育センターの施設を活用した。一般県民を対象にした学習機会の提供に、両者が協力できたことは大きな成果であった。

本事業終了後、県生涯学習センターでは、エル・ネット「オープンカレッジ」の大学公開講座の視聴を中心とした講座を開催したが、こうしたことから、エル・ネット「オープンカレッジ」の大学開放講座を活用して、高度な内容の学習講座開催の可能性が高まったと言える。



受講風景

[メイン会場：秋田県総合教育センター]



受講風景

[サブ会場：鷹巣町中央公民館]



受講風景

[サブ会場：増田町ふれあいプラザ]



託児風景

[サブ会場：増田町ふれあいプラザ]

エル・ネット「オープンカレッジ」 千葉大学公開講座

受講者アンケートと調査結果

Q 1 「放送番組」の進み方はあなたにとって速かったと思いますか、遅かったとおもいますか？

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1…遅かった | 2…どちらかというが遅かった | 3…適当であった |
| 0(0%) | 2(2.1%) | 90(92.8%) |
| 4…どちらかという速かった | 5…速かった | |
| 5(5.1%) | 0(0%) | |

Q 2 放送された内容で聞き逃したと思う箇所はありましたか？

- | | | |
|------------|-----------|----------|
| 1…まったくなかった | 2…少しあった | 3…かなりあった |
| 56(57.7%) | 41(42.3%) | 0(0%) |

Q 3 放送された内容で再視聴したい箇所はありますか？

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1…まったくない | 2…少しある | 3…かなりある |
| 32(33.0%) | 54(55.7%) | 11(11.3%) |

Q 4 放送で使われた各種演出（字幕やパネル、取材映像）は、講義内容に合っていましたか？

- | | | | | |
|--------------|-----------------|-----------|--|--|
| 1…まったく合っていない | 2…どちらかという合っていない | | | |
| 0(0%) | 1(1%) | | | |
| 3…どちらでもない | 4…どちらかという合っている | 5…よく合っていた | | |
| 12(12.2%) | 30(31.0%) | 54(55.8%) | | |

Q 5 放送中に登場した講師や出演者の話し方について、どのように感じましたか？

Q 5-1 話し方について

- | | | | |
|-------------|--------------------|--|--|
| 1…聞き取りにくかった | 2…どちらかという聞き取りにくかった | | |
| 0(0%) | 1(1%) | | |
| 3…聞き取れた | 4…よく聞き取れた | | |
| 29(29.9%) | 67(69.1%) | | |

Q 5-2 内容

- | | | | |
|------------|-------------------|--|--|
| 1…わかりにくかった | 2…どちらかというわかりにくかった | | |
| 4(4.1%) | 2(2.1%) | | |
| 3…分かりやすかった | | | |
| 91(93.8%) | | | |

Q6 画面が単調だと感じましたか？

- 1…まったく感じなかった 2…少し感じた 3…単調だった
66(68.0%) 27(27.9%) 4(4.1%)

Q7 日ごろ、教養・教育番組（テレビ）をどれくらいみていますか？印象でお答えください。

- 1…まったく見ない 2…時々見る 3…よく見る 4…連続して見ている番組がある
3(3.1%) 65(67.0%) 26(26.8%) 3(3.1%)

Q8 「視聴された放送番組」について、良かった点や改善点など気づいたことがありましたらご記入ください。

Q8-1 良かった点

別記

Q8-2 改善点

別記

Q9 本日の講座のような、衛星通信を利用した遠隔講座について、受講に際して受講料が必要だとしたら、受講したいと思いますか。

- 1 受講したいと思う。 Q9-1-1 と Q9-1-2へお進みください。
70(72.2%)
2 受講したいと思わない。 Q9-2-1 と Q9-2-2へお進みください。
27(27.8%)

(1と回答した場合)

Q9-1-1 受講料は1回（100分程度の講義）あたり、いくらぐらいが妥当と思われますか。

- a. 500円以下 b. 1,000円 c. 1,500円 d. 2,000円 e. 2,500円 f. 3,000円以上
32(45.7%) 33(47.1%) 2(2.9%) 2(2.9%) 1(1.4%) 0(0%)

Q9-1-2 どのようなサービスを希望しますか。（複数回答 可）

- a. 著名人の講師による講義が提供される。 39(55.7%)
b. 講師との質疑応答の機会が確保される。 37(52.9%)
c. より充実したテキストが提供される。 26(37.1%)
d. 修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。 14(20.0%)
e. 資格を取得する際に利用できる。 12(17.1%)
f. 大学の正規の単位が取得できる。 8(11.4%)

g. その他 1 (1.4%)

(2と回答した場合)

Q9-2-1 どのようなサービスが付加されれば、受講料を支払っても良いと思いますか。

(複数回答可)

a. 著名人の講師による講義が提供される。	11 (40.7%)
b. 講師との質疑応答の機会が確保される。	8 (29.6%)
c. より充実したテキストが提供される。	10 (37.0%)
d. 修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。	6 (22.2%)
e. 資格を取得する際に利用できる。	7 (25.9%)
f. 大学の正規の単位が取得できる。	11 (40.7%)
g. その他	0 (0.0%)

Q9-2-2 上記のようなサービスが付加された場合、受講料は1回(100分程度の講義)あたり、いくらぐらいが妥当と思われますか。

a. 500円以下	b. 1,000円	c. 1,500円	d. 2,000円	e. 2,500円	f. 3,000円以上
13(48.1%)	6(22.2%)	1(3.7%)	4(14.8%)	2(7.4%)	1(3.7%)

Q10 最後にあなたについてお知らせください。

性別	男	女
	41(42.3%)	56(57.7%)

年齢	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代
	0(0%)	10(10.3%)	23(23.7%)	33(34.0%)
	50歳代	60歳代	70歳代以上	
	14(14.4%)	15(15.5%)	2(2.1%)	

(別記)

Q8-1・Q8-2

- ・身近な問題を分かりやすく講話していただき聞きやすかった。
- ・先生が目の前にいるような親近感のある講義でした。
- ・講義内容が家庭・地域・学校にすぐ役立つものであり、それを分かりやすく具体的に説明していただいた。
- ・子ども・地域・家庭を取りまく状況の変化を明確に理解することができた。また講話が楽しく、分かりやすかった。
- ・明石先生のお話のうまさ、面白さ、内容に満足した。
- ・適度に笑いをとり、話に引きつけて飽きさせない明石先生はさすがでした。
- ・旧人類の一人として明石先生の講話はかなり共感できた。20分きぎみの講座がとても良かった。
- ・お話がとても分かりやすい。明石先生のお人柄、研究の深さの賜と思う。まとめの司会者もじ

ようだった。

- ・ホワイトボードを使用した点と、質問に対する応答が大変よかった。
- ・2時間の講座を3つに分け、20分ずつの講座にしたことがうまくいった要因だろう。
- ・資料が事前に準備されていたこと、また話術にもすぐれていて、分かりやすかった。
- ・インターネットから今日の講義の要旨が分かっていたので、分かりやすかった。社会・学校・子どもがかわったと思っていたが、それが納得できる形で話していただいて良かった。
- ・地域外の講師の話聞いて大変良かった。
- ・双方向性と内容を3つの区分にした点や時間配分も適切だった。
- ・画像がすっきりしていて臨場感があった。
- ・ユーモアがあって受講者をあきさせない内容で分かりやすかった。
- ・テキストが分かりやすく、話のポイントがしっかりしていた。問題点の指摘にとどまらず、解決策を提示していた。
- ・講師のお話が難しい用語もなく、とても分かりやすかった。内容がよく、ぐっと引きつけられた。
- ・このような形式の講義は普段経験できないので、大変よい体験をした。
- ・肩をはずし見聞できよかったです。
- ・先生との間に隔たりを感じることなく受講できた。
- ・質問の答えがすぐかえってくる点など双方向性の特徴がでて有意義な講義だった。
- ・学校・地域・家庭がそれぞれの役割分担をする・・・全く同感です。家庭や地域社会そして日本の世論は学校に頼りすぎている。そして学校（教師）は自らの力を過信して引き受けようとしている。そんな感じがします。すべての子どもたちの成長について、いっしょに考えていかなければならない。
- ・身近にありそうな例を入れながら、分かりやすく話していただいて面白かった。
- ・聞く人の心をとらえ、話の内容が分かりやすかった。
- ・会場とのやり取りに臨場感があった。
- ・講師の先生のウィットに富んだ分かりやすい内容で、うなづきながら視聴できた。
- ・家庭教育の見直しについて、考えさせられた。
- ・初めてのエル・ネット視聴であったが大変分かりやすく勉強になった。
- ・ポイントが適切で解説が分かりやすい。
- ・講義内容に具体的な事例が盛り込まれており、聞いていて納得できる内容であった。
- ・講話全体が大変分かりやすく、もっと多くの一般の人にも聞いてもらいたいと思った。
- ・講義の内容は飽きさせることのない良い内容であった。
- ・簡単明瞭な講話であった。地域・家庭のかかわりの大切さを強く感じた。
- ・子育て中の者として、日々なにげなく過ごしておりましたが、変わりゆく社会の中でいろいろな心がまえを教えていただき、よいヒントを得た講話だった。

(秋田県教育庁生涯学習課社会教育主事 瀧澤徳彦)

(2) 常磐大学エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業報告

常磐大学エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(常磐大学生涯学習センター)

1. 趣 旨

高等教育情報化推進協議会が文部科学省から委託を受けた「エル・ネット高度化推進事業」のうち、教育方法に関する調査研究ならびに通信システムに関する調査研究を行うため、大学の正規の授業の提供方法および衛星通信と地上のインターネットの融合方法の開発に関するモデル事業を実施する。

2. 委嘱期間

平成14年8月5日から平成15年3月1日まで

3. 内容等

(1) 高大連携と生涯学習

常磐大学の正規の授業を高校生にも、そして公民館などの生涯学習講座として活用してもらうための実験授業を行う。

今後、出張講義としての方法でなく、メディアを活用した単位取得方法の開発も行う。

(2) 移動式受信装置の導入

今年度開発された移動式のエル・ネット受信装置の活用方法についても検証する。

(3) 著作権処理の簡便化

アクアワールド大洗水族館の事業に参加する子どもたちの承諾書を文書で保護者の了解を得る方法について検証する。

(4) エル・ネットとインターネットとの比較

インターネット系のeラーニングと衛星通信の比較を行う。

(5) 独自収録

常磐大学職員(AVエンジニア)による映像の収録および編集を行う。

4. 実施経過

平成14年4月～9月 制作および収録の打合せ／モデル事業実施委員会開催
8月～9月 講座で使用する教材の制作・取材等
10月 大学独自の収録

①『ボランティアとミュージアム』第3回「ボランティアの理念と実際－災害救援活動を例として－」の収録

[収録の概要]

常磐大学コミュニティ振興学部が開講している「災害救援ボランティア論」をエル・ネット「オープンカレッジ」公開講座とした。本学の履修学生以外の受講者も意識し、それらの受講生ができるだけ臨場感を感じ、講座の内容を理解し易いような収録を目指した。

[収録日程]

平成14年10月8日（火）8時30分から11時00分まで

[収録スタッフ]

担当講師 吉永 宏 コミュニティ振興学部教授

[講座の収録および編集者]

本学職員（AVエンジニア） 1名

[講座進行および収録補助]

本学職員（生涯学習センター職員） 1名

②『ボランティアとミュージアム』第1回「水族館のヒミツⅠ」および第2回「水族館のヒミツⅡ」の収録

[収録の概要]

常磐大学コミュニティ振興学部が開講している「ミュージアム教育普及活動」をエル・ネット「オープンカレッジ」の公開講座とした。収録は、本学の視聴覚教室内で行われ、後日、同収録内容と取材映像を編集し、「オープンカレッジ」講座として制作した。

[収録スタッフ]

担当講師 坂井知志 コミュニティ振興学部助教授

[講座の収録および編集者]

本学職員（AVエンジニア） 1名

[収録日程]

平成14年10月23日（水）13時00分から17時00分まで

③番組の編集

平成14年10月10日（土）～10月29日（土）

[編集スタッフ]

本学職員（AVエンジニア） 1名

④大学独自収録の学内での評価

大学独自の収録は、「東京収録・スタッフ派遣」と比較し、コスト面でかなり低コストでの収録が可能である。また、映像技術面でも本学に整備されているパソコンソフトやAV機器を効果的に使用することができるため、特別な準備をする必要がなく、また人的にも専門技術スタッフが配置されており、収録や編集の両面にわたり、極めて簡便に番組制作ができることから高い評価を得ている。

平成14年11月 収録ビデオの提出

平成14年12月 放送

『ボランティアとミュージアム』 全3回

第1回「水族館のヒミツⅠ」

12月3日（火） 10時00分から11時20分まで

第2回「水族館のヒミツⅡ」

12月10日（火） 10時00分から11時20分まで

第3回「ボランティアの理念と実際 —災害救援活動を例として—」

12月17日（火） 10時00分から11時20分まで

平成14年12月

～

事後処理・事業評価／モデル事業実施委員会開催

平成15年2月

5. 成果と今後の課題

（1）事業の成果

①「水族館のヒミツⅠ」、「水族館のヒミツⅡ」について

この講座は、常磐大学コミュニティ振興学部の開講科目「ミュージアム教育普及活動」をエル・ネット「オープンカレッジ」講座として受講生に公開するとともに、本学学生に対しては、収録ビデオを同科目の授業の際に放映し、遠隔授業を再現した形態で受講してもらった。教材として取材映像の放映、テキストの構成においても視聴覚資料を多用し、より講座の内容をわかりやすいものとした。また、講座中、課題を複数回出すことにより、一方通行になりがちな受講形態を参加型にするなど工夫を凝らした。特に本学学生においては、同形態の遠隔授業（学習）をはじめて体験する者が殆んどであったが、講座終了後の反応は大変良く、リアルタイムに講師に質問したり、講師や他会場の受講生も含め多元的な意見交換や討論などができることよとの意見があった。このことは、他大学の事例もあり技術的には可能であるので、本学における今後の検討課題としたい。

②「ボランティアの理念と実際 ―災害救援活動を例として―」について

この講座は、常磐大学コミュニティ振興学部が開講している「災害救援ボランティア論」エル・ネット「オープンカレッジ」の受講生に公開したものである。エル・ネット「オープンカレッジ」の受講生を意識しながら、教材として取材映像の放映、OHCによる写真資料等の投影など、視聴覚資料を多用し、また、教室内の学生と同様に開講中に課題を出すことによって、一方通行になりがちな受講形態を参加型にするなど工夫を凝らした。

③両講座を通じての成果

大学の独自収録は、低コストで番組を制作できるとともに、大学の特色を生かした講座をつくり上げ、それをエル・ネット「オープンカレッジ」の受講生に提供できる点に特色があると思われる。その点、本学においては、人間科学部やコミュニティ振興学部の授業で使用している機器等が整備されている。それは、収録した映像を編集するパソコンソフトや画面の合成や変形などによって映像を効果的に作成したり、編集するための各種AV機器等である。また、これらの機器等を駆使できるAVエンジニアも在職している。従って、本学において、大学独自の収録を行うにあたっては、特別な準備をする必要もなく、収録・編集の両面で極めて簡便に成果を上げることができた。今回、新たな取り組みとして、エル・ネット「オープンカレッジ」の受信施設として、本学の講座を一般の方も受講できるよう放送時に受信装置設置の教室を開放し、一般の方20名に受講していただいた。エル・ネット「オープンカレッジ」は、全員がはじめての受講であった。この取り組みを実施するにあたり、県内の複数の各社会教育施設等への聞き取りを行った。本県において「オープンカレッジ」をプログラムとして企画しているところは殆んどなく、住民レベルにおいてもエル・ネットの存在そのものを理解しているケースは極めて少ないことがわかった。今回の受講者20名のエル・ネット「オープンカレッジ」への評価は非常に高く、この素晴らしいシステムを、一日も早く利用したい、近隣の公民館等で受講したいとの感想や、また、国や自治体のエル・ネットの推進政策はどうなっているのかなどの質問もあった。今回の取り組みで、エル・ネットを利用することによって、全国の大学のさまざまな講座を受講することができ、「オープンカレッジ」に対する需要が間違いなくあること、今までの限られた環境の中での学習機会が大きく広がり、多様な学習ニーズに応えるためにもエル・ネットのさらなる活用を検討していくことが必要であることを改めて確信した。

(2) 今後の課題

①過年度および本年度実施講座について、点検項目を設けて慎重に点検を行ったうえ、改善すべき点を見直して今後の講座開設にあたる。

②今回の講座は、従来の受講生が受身の形である受講形態を改め、講座展開中に課題を出すなど参加型の内容とした。次年度以降、その発展型として担当講師と受講生の間

で質疑応答や別会場の受講生との意見交換など双方向通信が可能となる講座を提供できるよう検討していきたい。

- ③「オープンカレッジ」をはじめ、エル・ネットの活用が決して十分とはいえない本県において、この素晴らしいシステムをいかに一般の方々や公民館等の社会教育施設、高等学校等に周知していくか、また、既存の施設でのさらなる有効活用への助言、需要の喚起など、エル・ネット全体の推進政策を検討し、本学がそのリーダー的役割を果たしていきたいと考える。

(3) 「にいがた連携公開講座」と

エル・ネット「オープンカレッジ」との連携をさぐる

「にいがた連携公開講座」実行委員会
(新潟県立生涯学習推進センター)

1. 趣 旨

県民の学習ニーズが多様化・高度化するとともに、地域における学習要求が高くなってきている。これを踏まえ、県と市町村、大学等高等教育機関が連携する中で、多様で高度な学習機会を県内各地域住民に提供することを目的として、平成13年度から広域遠隔学習推進事業を実施している。これは、県が講座を主催し、講座の主会場を各地域巡回で実施するとともに、多地点接続のテレビ会議システムの双方向性を利用して、受信を希望する市町村等に講座を配信するものである。

今回のモデル事業では、講座をエル・ネットでも発信することにより、県内各地にある受信局を通してより多くの県民の受講を可能にするるとともに、当県で取り組んでいるこの事業を全国に紹介することを目的とした。また、当県はエル・ネットV S A T局を設置していないので、大学間衛星通信ネットワーク（S C S）経由で他県のV S A T局からの発信を試みた。

2. 概 要

(1) にいがた連携公開講座について

今年度の「にいがた連携公開講座」は、14の大学等、8市町村、それに2つの県の施設が参加し、市町村が希望するテーマにより、大学等から講師を選定して派遣する。その講座は、テレビ会議システムを利用して市町村へライブで配信する。今年度は下表の19講座を実施し、その中の1つをモデル事業としてエル・ネット「オープンカレッジ」の1講座に登録し、10月26日に全国に配信した。

表 1 「にいがた連携公開講座」2002 開設講座一覧

No	日時	主会場	テーマ・講師	受信会場
1	7/14 (日)	羽茂町公民館	「異文化とコミュニケーション」 県立新潟女子短期大学	十日町情報館 県立生涯学習推進センター
2	7/14 (日)	羽茂町公民館	「安全で持続可能な農業の 姿とは？」 新潟大学	十日町情報館 県立生涯学習推進センター

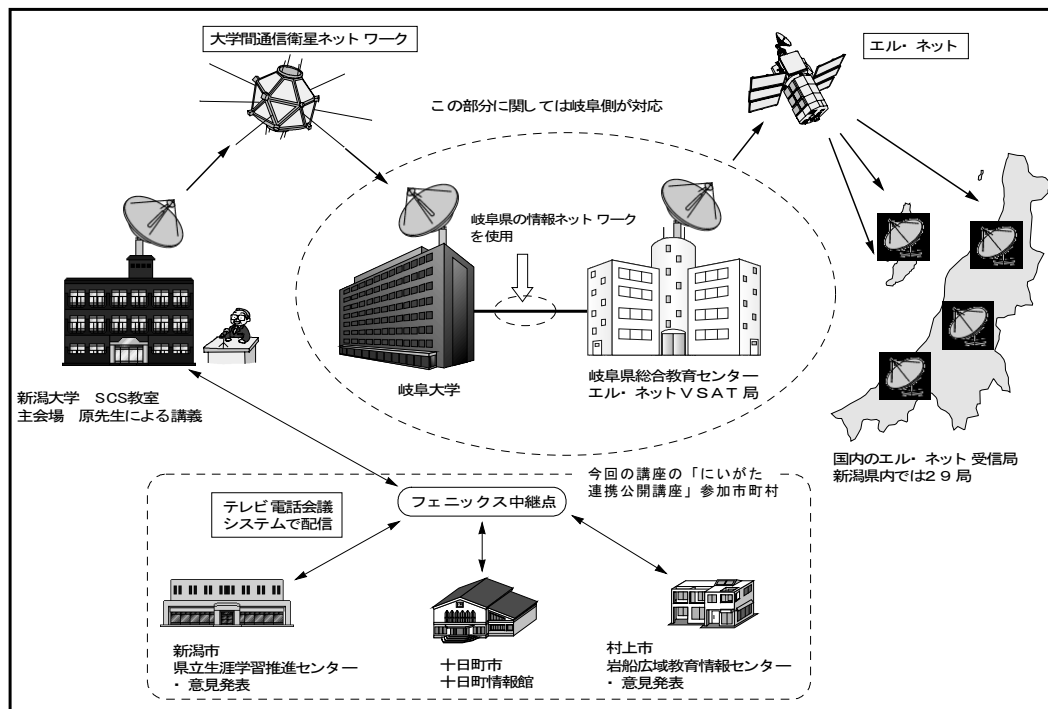
3	7/27 (土)	三条市中央 公民館	「新しい仕事おこし」 長岡大学	青海町「きらら青海」 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
4	8/4 (日)	小国町就業 改善センター	「完全学校週5日制時代の 家庭と地域」 新潟大学	三条市中央公民館 岩船広域教育情報センター 刈羽村「ラピカ」 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
5	8/11 (日)	三条市中央 公民館	「がん克服への道」 日本歯科大学新潟歯学部	岩船広域教育情報センター 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
6	8/18 (日)	十日町情報館	「国際化の中の人間理解 ～日本と韓国～」 新潟国際情報大学	三条市中央公民館 岩船広域教育情報センター 県立生涯学習推進センター
7	9/7 (土)	青海町総合 文化会館 「きらら青海」	「自然環境と人々の暮らし」 上越教育大学	岩船広域教育情報センター 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
8	9/20 (金)	岩船広域教育 情報センター	「坂口安吾の書簡と 生原稿の語るもの」 敬和学園大学	青海町「きらら青海」 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
9	9/28 (土)	県立生涯学習 推進センター	「理科教育と技術社会」 新潟工科大学	岩船広域教育情報センター 十日町情報館 羽茂町公民館
10			「発明・アイデアのコツ」 長岡工業高等専門学校	
11	10/4 (金)	岩船広域教育 情報センター	「会津八一の書簡に読む、 その素顔と魅力」 敬和学園大学	青海町「きらら青海」 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
12	10/13 (日)	十日町情報館	「まちづくり・市民参加・新技術」 長岡造形大学	青海町「きらら青海」 岩船広域教育情報センター 県立生涯学習推進センター
13	10/26 (土) 13:00～14:50 主会場：新潟大学		<エル・ネット特別講座> 「日本海がはぐくんだ地域と文化」 新潟大学	岩船広域教育情報センター 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
新潟大学を主会場としてエル・ネットでライブで放映。「にいがた連携講座」参加の岩船広域教育情報センター、県立生涯学習推進センターからテレビ会議システムを通して、意見発表をしていただいた。				
14	11/10 (日)	十日町情報館	「市町村合併の課題と展望」 新潟産業大学	岩船広域教育情報センター 県立生涯学習推進センター

15	11/16 (土)	十日町情報館 岩船広域教育 情報センター 県立生涯学習 推進センター	<企画講座> 「身近な環境問題を考える ～大気汚染編～」 新潟工業短期大学・新潟県森林研究 所・新潟市環境対策課	羽茂町公民館 岩船広域教育情報センター 県立生涯学習推進センター
16	11/30 (土)	青海町総合 文化会館 「きらら青海」	自然環境と人々の暮らし 「新潟県の天気と暮らし」 上越教育大学	岩船広域教育情報センター 十日町情報館 県立生涯学習推進センター
17	12/8 (日)	県立歴史 博物館	「中国の旧正月 ～日中の民俗文化の比較～」 県立歴史博物館	三条市中央公民館 青海町「きらら青海」 羽茂町公民館・十日町情報館 県立生涯学習推進センター
18	12/14 (土)	県立生涯学習 推進センター	「いま求められている子育てと 子育て支援」 長岡大学	岩船広域教育情報センター 三条市中央公民館 青海町「きらら青海」
19			「子育てを支援する歯の知識」 明倫短期大学	羽茂町公民館 十日町情報館

(2) 当日のシステムについて

新潟県内にはエル・ネットV S A T局がないので、大学間衛星通信ネットワーク（SCS）を活用し、新潟大学V S A T局から岐阜大学へ送信した。岐阜大学の村瀬先生、岐阜県総合教育センターの久世先生からご協力いただき、岐阜県内の情報ネットワークを通してエル・ネットV S A T局の岐阜県総合教育センターに転送し全国に発信した。

図1 モデル事業イメージ図



3. 事業の成果と課題

(1) 講座内容について

① 成果

県立生涯学習推進センターでは、平成13年度まで「新潟ふるさと学」というテーマで地域の自然、歴史、文化等に関わる講座を実施していた。これら地域に関わる講座は関心が高く、比較的参加者も多かった。このような講座をエル・ネット等を通して県内各地に配信することは、都市部に比べて受講機会の少ない中山間地の県民も、より手軽に講座に参加できるなど、受講者のニーズに合ったものとする。今回の受講者の次ページのアンケートにも見られるよう「よかった」という意見が多い。

【受講者の意見】

◎エル・ネットで視聴して

- ・日本海の恵について知ることができた。また、日本海の活用方法についても知ることができた。塩の道、魚類の流れがよくわかった。

◎テレビ会議システムで視聴して

- ・今日は大変丁寧な資料で説明、講義の内容で分かりやすくよかったと思います。
- ・県内でも、県外でも各産業別（農業、漁業、建築、商業等々）起源からの歴史等を少し掘り下げてみたらどうでしょうか。
- ・大変良い勉強になりました。新潟の加藤さんのお話は参考になりました。郷土史関係の講座を希望します。
- ・このような講座を受講して勉強になりました。ありがとうございました。
- ・私は直江津生まれ、昭和20年頃までの町の商業など、私の家とのつき合いがあり、改めて思い出します。魚、乾燥海産物の問屋がいくつもありました。メ上げ、高助、長戸や等々、今は皆無のごとく、商売のつき合いが子供ながら色々思い出しました。新潟の港の交流も商業だけでなく、時代の流れに大きな歴史がつくられていますね。



写真1 新潟大学から講義する原先生



写真2 生涯学習推進センターでの受講風景

② 課題

受講者のニーズに対応するとともに、いかにして質の高い講座を作るのかが最大のポイントである。テーマの選定、講義技術の向上、映像をうまく使った講座、わかりやすい映像を送信するためのカメラワークの検討など、講座を主催する側は十分に考慮していかなければならない。特に、まだ十分に普及していないエル・ネットオープンカレッジを県民に周知させるためにも、テキストの入手方法を知らせたり、場合によっては準備しておく必要がある。

また、新しい受講者層の発掘のためにも確実に人数が確保できる内容だけでなく、話題性のある内容も取り上げていく必要がある。

【受講者の意見】

◎エル・ネットで視聴して

- ・各種の話の中で地名が出てきたが、もっと地図を利用して説明がほしかった。
- ・バックの色が白で顔が写るだけでは見にくい。カメラを引いて演台など会場全体が見られたり、途中から見た人もわかるように放送内容の横断幕などがあるとよかった。
- ・有意義なお話、生放送ではなく録画編集してもっとわかりやすくしてほしい。
- ・レジメやテキストが事前にほしかった。
- ・プレゼンテーションの工夫やビデオなどの動画も活用してほしい。
- ・受講者の底辺を広げるためにもっと話題性のある講座も必要。

◎テレビ会議システムで視聴して

- ・受講者が少ないのが、いささかさびしい感があった。もっと大勢の人たちから受講してほしいと思った。

(2) 双方向性について

① 成果

「にいがた連携公開講座」では、テレビ会議システムの双方向性を生かして、受信会場の参加者からも、リアルタイムで質問を受け付けている。今回は意見発表という形ではあるが複数の会場からお話いただいた。メインの講師以外に関連のある話が聞け、講義の質に深まりが見られた。質問できなかったエル・ネット受信会場の参加者も、主会場からの一方的な話よりよかったという意見が多い。また、同様の形式で行った「にいがた連携公開講座15回目 企画講座」(表1参照)では、メイン講師で答えられない内容については、他の会場の講師から答えていただくこともあった。

【受講者の意見】

◎エル・ネットで視聴して

- ・講師の話よりメイン会場の話の方がよかった。(言葉がはっきりとわかった)
- ・講師1人が淡々と話すのではなく、各会場から報告放送があり単調さを緩和していた。
- ・地方(新潟、村上など)の会場を結び、その地との日本海とのつながりについてのお話は参考になった。
- ・各地区の代表のお話が大変よかった。図、写真なども多くわかりやすかった。

◎テレビ会議システムで視聴して

- ・意見発表も大変良かった。
- ・原先生もまとまりがありました。加藤さん、岡村さんとも違った角度からの意見(研究)でよかった。



写真3 生涯学習推進センター会場から
意見発表する受講者



写真4 岩船広域教育情報センター会場から
意見発表する受講者

② 課題

双方向性を求めるためには、システムの構築が不可欠である。特に質問の回答をすぐにもらったり、意見交換をするためには、ライブ放送が不可欠となる。しかし、現在の一方的なエル・ネット放送の現状を考えると、画質を問わないのであればテレビ会議システムの回線を別個に引くなどの方策も考えられるが、なかなか難しい。

また、双方向で意見交換を行う場合も発表者全員の資料を準備したり、講座全体の綿密なタイムスケジュールを決めておく等、放送時間内に講座を収めるような綿密な計画、準備が必要となる。

【受講者の意見】

◎エルネットで視聴して

- ・新潟会場からの発表は速すぎて多くを聞き逃した。村上会場からの発表は、パネルや手法を使っただけであれば理解がしやすかった。

◎テレビ会議システムで視聴して

- ・新潟会場報告も興味ある内容でしたが、レジメが配布されたらよかったと思う。
- ・新潟からの発表はレジメがなかったのでよく分からなかった。

(3) システムについて

① 成果

ライブで放送を行う場合、エル・ネットV S A T局がなくても今回のような形態で発信できる方策があるということが実証できた。しかし、そのためには他県のV S A T局や、そこに中継するための施設に負担がかかることも承知しておかなければならない。

② 課題

エル・ネットで直接放送しなければ本来の画質の良さを生かし切れない。動きはエル・ネットの方がテレビ会議システムよりスムーズであったが、画質についてはほとんど変わらないように思えた。また、アンケートにもあるように画面の劣化があり、特に数字などは見えにくい状況であった。テレビ会議システムで実施している「にいがた連携公開講座」ではこの点が課題で、拡大して写さないと資料の数字や文字はほとんど見えない状態であり、どうしても資料を放映しなければならないときは、同様の印刷した資料を視聴者が持つようにしている。また、意見発表会場からの音声の中継に関しても、テレビ会議システムからS C Sへの引継がなかなか難しかった。やはり、エル・ネットを利用しライブでクリアな映像や音声を送るためには自前のV S A T局が不可欠である。

【受講者の意見】

◎エル・ネットで視聴して

- ・画面がもう少し鮮明になるような工夫はできないものか、字や図が見えにくかった。
- ・話し方はいいのですが、マイクが悪いのか音声がこもってとても聞き難かったです。

(講師のみ、他の会場はよかった)

- ・画面が白黒かカラーかわからないくらいはっきりしなかった

◎テレビ会議システムで視聴して

- ・スクリーンの映像も今日は特に良好でした。
- ・資料の映像がはっきり映らない。(特に数字等)